

3月11日を迎えて 「被災された方たちが主役の復興」を支える共同宣言

私たち、岩手・宮城・福島の『連携復興センター』は、東日本大震災によって甚大な被害を被った被災地が自らの意志によって復興へと向かい、被災以前のようなつながり、にぎわい、ふれあいを取りもどすことを目指して活動をしている地元の団体です。『連携復興センター』の生い立ちや構成、個々の活動はそれぞれですが、多様な担い手が連携することで、被災された方たちが主体的に復興へと向かう活動を支援しようという共通の思いを持って、ともに活動しています。

2011年3月11日の震災発生以来、岩手・宮城・福島をはじめとする被災各地域へ、日本全国から、また世界各国からも多くのご支援を頂きました。これにより被災地域住民の多くがさまざまな面で救われました。また、被災地において一定の落ち着きを取りもどすことができましたことも物心両面にわたる皆様からのご支援のたまものです。あらためて感謝申し上げます。

一方、復興はこれからが本番です。発生から一年が経過した今なお、被災地は「復旧」さえもままならない状態です。家を失い仮住まいでの暮らしを強いられている方々や、仕事を失い生活再建の見通しが立たない方々が、まだ数多くいます。約65,000人もの方が県外で避難している福島も、憂慮すべき状態が続いています。

表面的には支援が概ね行き渡り、落ち着きを取り戻したかのように見えるかもしれませんが、被災地にはまだまだ希望が足りません。震災から一年が経ち、震災直後とは違う不安を抱くことも増えました。この年度末を機に撤退する支援団体もあります。被災地以外の地域では関心すら薄れつつあることを、現場にいる私たちは肌で感じています。

但し、私たちは、こうした状況を悲観してはいません。復旧・復興とその先にある新しい「まちづくり」「しごとづくり」の道程の中で、外からの支援だけに

頼らず、被災された方たち自身が主役になる時期が訪れたと考えています。

希望は、待っているだけで湧き出てくるものではありません。誰かから一方的に与えられるものでもありません。被災された方たちが自ら立ち上がり、行動し続けてこそ生み出されるものだと、私たちは考えます。

そんな被災された方たちの復興への行動を引き出し、支え続けることが、私たち支援者の使命だと考えます。そのためには、自治体・NPO・企業・教育機関など多様な担い手による「連携」と「協働」がますます必要になります。私たちはそうした様々な担い手同士をつなぐ役割を果たし、被災された方たちを支え、復興を加速させることをめざします。

いわて・みやぎ・ふくしまの3つの連携復興センターは、これからも「被災された方たちが主役の復興」を全力でサポートすることを、今日ここに共同で宣言します。

2012年3月11日

いわて連携復興センター
みやぎ連携復興センター
ふくしま連携復興センター

*岩手・宮城・福島それぞれの『連携復興センター』のご紹介

いわて連携復興センター

岩手県内の中間支援 NPO のネットワークが中心となって設立された特定非営利活動法人です。釜石に本部、北上にサテライトを置き、岩手県沿岸部の復興に向け、全国からの様々な支援と、自立・復興のためにその支援を必要とする人を結ぶとともに、必要な情報・技術を提供し、被災された地域住民の方一人ひとりが前向きに地域復興に向け歩むことのできる環境を構築することを目的として活動しています。

<http://www.ifc.jp/>

みやぎ連携復興センター

震災発生直後に特定非営利活動法人せんだい・みやぎ NPO センターの呼びかけで、宮城県内外の NPO と支援団体により設立されました。当初は政府現地対策本部や県災害対策本部、自衛隊、NPO/NGO、企業、自治体などとも連携しながら被災者支援についての団体間の連絡と調整を行なう機能を果たしました。現在は『地域主導の自律的な復興とまちづくりの実現』を目的として、特定非営利活動法人せんだい・みやぎ NPO センターの特別事業部門として活動しています。

<http://www.renpuku.org/>

ふくしま連携復興センター

福島県内外の被災者の連携と支援・自立と復興を目的に大学、市民、NPO が協力して被災者支援を行う仕組み作りを目指して一般社団法人として発足しました。全国からの様々な支援とそれを必要としている現場を繋ぐコーディネート機能を果たし、被災者の生活相談窓口「ふみだす生活サポートセンター」の運営や、広域分散避難を支えるためのネットワークづくりに取り組んでいます。

<http://f-renpuku.com/>